

平成 30 年 2 月 3 日

京口門だより No. 52

この冬は厳しい寒さに攻められつづけです。日本だけでなく欧米やロシアでも厳寒がおとずれ、とくにロシアではマイナス 65℃の気温となり、凍死する人もいたとか報道していました。想像をこえる寒さです。暦の上では 2 月 4 日は立春となります。「春寒く咳入る人形遣かな」(渡辺水巴)

普通の感冒やインフルエンザも猛威をふるっていると言います。全国でインフルエンザ感染者は 250 から 270 万人などと言われています。かつて 1907 年代(大正初期)には第一次世界大戦の最中にスペイン風邪という名のインフルエンザが大流行し、肺炎をおこして世界で 5000 万人以上亡くなったと言われています。日本でも 40 万から 50 万人も亡くなったといわれます。当時はワクチンもなく、肺炎になっても抗生物質もなく、治療の術がなかったことも悲惨な結果をもたらしたと言われます。インフルエンザの大流行は 10~15 年周期で発生するそうです。

日本の歴史のなかでも研究者によれば、古くは平安時代や鎌倉時代に「シワブキ(せき)」という名で大流行したことが記録されています。増鏡という本にも「シワブキヤミ」がはやって多くの人が亡くなったと書かれています。インフルエンザが流行して、肺炎を起こして激しい咳のため亡くなったと想像されます。江戸時代には「天行(流行という意味)感冒」とか「瘟疫感冒」などとよんだり、天保年間(19 世紀)には、当時のオランダ医学の人たちが、伝染して流行する病に「印弗魯英撒(インフリュエンザ)という病があるが、まだよく分らないと記されています。

今日では鳥類や家畜から発生したウィルスが変異をして、人に感染し伝染して流行してくることが判っていますし、そのウィルスの型も A 型や B 型など判定できるようになっています。ウィルスがわかればワクチンを作ることができるようになり、有効な治療手段となっています。抗インフルエンザウィルス剤も開発され、昔のように大勢の方がなくなることは少なくなりました。

漢方の世界でも昔から治療者は工夫を重ね、どのような薬方が有効か追及してきました。前にも申したように、当院の風邪 1 号や 5 号ですっきりと治すこともできます。

